史料群番号　12

史料群名	村上茂夫家文書（むらかみしげお）	旧所蔵者	村上茂夫
採訪時住所	宮城県本吉郡大島村		
現在の住所	宮城県気仙沼市		
採訪年月	昭和24（1949）年8月		
史料の年代	明和7（1770）年～昭和15（1940）年	史料の総点数	（約3500点）
年代の内訳	近世　約300点/近代　約2680点/不明　約530点	筆写稿本	あり
既刊行目録	「1950年3月　漁業制度資料目録　第1集　全国篇Ⅰ　日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」		

収蔵にいたる経緯

本史料群も「熊谷節子家文書」と同様、「漁業制度資料調査保存事業」が正式に発足する以前に、宇野脩平が「近世庶民資料調査特別委員会」の書類を用いて、採訪を行った。詳細は「熊谷節子家文書」（№11）の「収蔵にいたる経緯」を参照。

史料群の概要

大島は気仙沼湾の中央に位置する島である。古くから漁業を生業としてきた。

本史料群は本吉郡大島村の村政に関するものと、漁業に関するものに大別できる。近世期の村上氏はたびたび大島村肝入（名主に相当）を勤めており、本史料群に近世大島村の村政に関する史料が含まれているのはそのせいである。しかし、近世期の史料は、全体の10%に満たない。明治・大正期の鮪・鰹・鮫・鰈・鯖・鰯・鱈を対象とする網漁の経営に関する帳簿類は本史料群の特徴をなすものである。

これらは大半が大謀網に代表されるような比較的規模の大きい定置網による漁で、世界三大漁場（№10「竹浦漁業協同組合文書」の「史料群の概要」参照）の一つである三陸沖でも、本吉沿岸は岩礁が多く、回遊魚を建網でとらえるのに都合のよい条件がそろっていた。「熊谷節子家文書」とともに、三陸沖の定置網漁の実際を伝える史料群である。（本吉町誌）